



文化芸術による子どもの育成事業 能・狂言の面白さを学ぶ

7月5日と6日の2日間、蔵之元小学校と長島中学校で、文化庁の文化芸術による子どもの育成事業（巡回公演事業）が開催されました。

この2校では、皐風会（東京都）による、能・狂言についての説明や、狂言での笑いかたなどに挑戦するワークショップが行われました。

実際の上演では、能「羽衣」と狂言「柿山伏」の2目が披露され、能のはやしや謡の迫力ある演技や狂言のユーモア溢れる表現を子どもたちは楽しんでいました。飯尾浩平さん（長島中・3年）は「今回の公演で、能楽の面白さを学ぶことができたので家族や友だちにも伝えていきたい」と話していました。



↑狂言に見入る生徒たち（長島中学校）

文化芸術による子どもの育成事業 生徒が講談を実演

6月、川床中学校では、文化庁の文化芸術による子どもの育成事業（巡回公演事業）を活用して、公益社団法人落語芸術協会（東京都）に所属するプロの講談師・落語家を講師として招いて落語・講談のワークショップが行われました。

7月3日には、講談を学んだ各学年代表の生徒3人が、講談を実演披露。お題の「一休さん」を講談で使う小道具「張り扇」を使いながら、見事に読んでいました。3年生を代表して発表した山下倅広さんは「覚えるのに時間がかかったが、先生に協力してもらって、本番では最後までやり通せたので良かった」と満足した様子でした。



↑堂々と講談を読む生徒

社会を明るくする運動伝達式 立ち直りを決意した人を応援

毎年7月は、「社会を明るくする運動」強化月間です。この運動の啓発を図ろうと7月3日、役場で伝達式がありました。

この日は、出水保護区保護司会長島支部の久保祐紀保護司が内閣総理大臣からの、楠元肇保護司が県知事からの社会を明るくする運動メッセージを川添町長へ伝達しました。

伝達を受けた川添町長は「町として、これからも明るい社会づくりにまい進していきたい」とあいさつしました。



↑県知事からのメッセージを町長へ伝達する楠元さん